

(平成 25 年 3 月試験研究業務月報)

試験研究課題：中山間地等における飼料米の産地成立要件の解明（地域資源循環型耕畜連携を支援するための飼料米及び鶏卵生産技術の開発）、鶏肉の食中毒細菌汚染を生産段階で抑制する技術開発

研究

研究成果を 2 学会で発表

当センターの研究成果を 3 月 25 日に日本草地学会で「有機酸を活用した未乾燥飼料用米の保存技術」について、29 日に日本家禽学会で「粳米の給与によるブロイラーのカンピロバクター感染抑制」について発表しました。

プロピオン酸を未乾燥飼料用米に添加すると 1 年間の保存が可能となり、低コストで長期保存できることやブロイラーに粳米を給与すると鶏の筋胃が発達し、カンピロバクターの感染を抑制することが注目を集めました。

今後、飼料用米の生産・利用拡大とカンピロバクター感染抑制技術の確立による食中毒の低減に向け、さらに試験研究を進めます。



日本草地学会（山形県山形市）

畜産センター